

イタリアは毎年約6千万人以上の旅行者が訪れる観光大国である。そして、今年の早い段階からコロナの感染が急激に拡大した国でもある。1月末から影響が広がり、外出制限を経て、国境が再開した6月から観光客の戻りは見えてつつあるものの、海外からの旅行者数は前年比53%減の見込みとされ(※)、観光業の傷跡は深い。毎年4千万人以上の観光客が訪れ、昨今オーバーツーリズムが課題となっていたベネチ

JNTOローマ事務所

## 善木 麻衣子 次長

66

## イタリアに学ぶ新しい観光



アも、旅行関係者によると、観光客は例年の約15〜30%とのことである。世界最大の観光受け入れ国の一つであるイタリアだが、国民自身もバカンスを重んじ、毎年8月半ばは2〜3週間休暇を取るのが一般的だが、今夏も例外ではない。伊国家統計局によると、第2四半期GDP成長率は、前年同期比17・7%減と

## 自然志向、安心安全を重視

過去最低となったものの、8月の消費者信頼感指数は、7月の100・0から100・8へと回復傾向が見られ、当地調査会社Ixeによると、人口の約3分の1に当たる2110万人(前年比11%減)のイタリア人が今夏旅行をしたとの結果が出た。ここで、旅好きのイタリア人のマインドや観光業の対応について

51%に比べ、外出制限解除後に回復の兆しが見える。回答者のうち、約83%は国内旅行に、行き先は海が59%(前年56%)、山が15%(11%)、自然がある郊外が8%(5%)と「自然」を求める傾向が見られ、他方、文化に触れる旅行は17%(26%)、クルーズは1%(2%)と下方傾向が見えた。旅行期間

は、3泊程度の小旅行が51%(前年52%)、4〜13日が30%(43%)、2週間以上と回答した者は10%(17%)であった。コロナ禍にありながらもバカンスは欠かせないイタリア人にとって、旅中の安心安全の確保は重要であり、どのようなメッセージを受け取りたいか、との問いに「安心安全」が68%、「日常への回

探りたい。ミラノの調査会社Ipsosが6月末に千人を対象に行った夏の旅行の意識調査によると、夏に旅行を予定していた人は、前年の72%から61%に減っているものの、4月上旬の41%、5月末の

座席の利用を制限した長距離電車の車内

※JNTO World Tours in Barometer 2020 (月1回掲載)